

平成24年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 文武両道をめざす高校
高い志をもち、幅広い教養を身に付けるとともに他人を思う心を育む。また、特別活動や部活動をとおして逞しい実行力、実践力を養う。
- キャリアガイダンスの充実した進学校
多様な進路に関する情報を提供することによって明確な進路目標をもたせ、その目標へ向けての学習活動によって進路希望の実現へと導く。
- 国際文化科と総合科学科という特色ある学科を基本とし進化を続ける高校
専門学科の利点を生かし、時代の要請に応じた新しい取組みを進めていく。

2 中期的目標

- 確かな学力への取組み
 - 専門高校としての特徴を活かした教育課程の編成と、両科の強みを相互に活かす教育活動の展開をめざす。
 - 授業力アップのために、授業アンケートを活用すると同時に、校内外に対して公開研究授業を行う。
 - 生徒の自学自習をサポートする方法を考えて、自ら学ぶ力を深めるように助力をする。図書館等を利用し自習環境を構築するとともに、自習方法を身につけるような導入指導を工夫する。
 - 英語教育の充実
 - 「使える英語プロジェクトG3」校として、生徒の英語運用能力の向上の為に教材づくりや教育課程を工夫する。
 - 総合科学科の生徒の英語発表能力を向上させ、世界で活躍できる科学人材づくりをめざす。
 - 英語検定やTOEICなどの資格試験にチャレンジする生徒を増やし、その得点を向上させる為の講座を開く。
 - 理数教育の充実
 - スーパーサイエンスハイスクール事業について2期目5年間の指定をめざす。これまでの成果を今後の在校生に対しても実践していくとともに、更に深めた取組みを行う。
 - 五感で体得する理科授業をめざし、多くの実験実習を取り入れるとともに、それを活かす教材を開発する。
 - 高大連携、大学訪問研修等を継続し、学問世界に触れることで、生徒の学習意欲を高める。
※授業評価アンケートにおける、「授業理解度」を現在全学年平均で62.7%であるのを、3年後には70%をめざす。そのために年2回実施して、授業改善の工夫の資料とする。
実験・実習の割合を理科全授業の50%以上で実施する。科学系コンテストに応募して、3年間で2件以上の入賞をめざす。高大連携・大学訪問については、年間30講座を維持すると同時に、生徒の満足度80%以上をめざす。英語については、TOEIC BRIDGEの平均点を、両学科とも3年間で10点向上した文化科148点、科学科125点をめざす。
- 進路指導の充実
 - 3年間の学習の成果とも言える一人ひとりの生徒の進路実現について、学校としての取組みを明確にしながら進める。
 - 進路情報の的確な提供と、進路選択のきめ細かい指導を行う。進路講話の実施等、早期からのキャリア教育の充実を図る。
 - 進路を獲得する学力を付ける為の、補習を計画的に実施する。
※進路講話等キャリア意識形成につながるLHRを、1・2年次に5回以上開催する。センター試験の受験者を、150名以上とし、900点受験者を増加させる。国公立大学現役進学者を25名以上とする。
- 開かれた学校づくり
 - 学校の特色や活動について幅広く情報発信をするとともに、地域との連携を進め、「地域のセンター」としての機能を果たす。
 - 校務分掌としての広報部を作り、いろいろなメディアでの情報発信、また、学校説明会・地域に出かける出前説明会・体験入学を更に充実させるとともに、開催案内を徹底させ、多くの中学生に実際に体験してもらう。
 - 小中学生対象の科学講座・英語講座を実施して、地域の教育の中核校として認知してもらう。
※学校説明会の参加者を、生徒・保護者合わせて1000名以上とし、中学訪問・出前説明会の2回以上開催することにより、中学校の担当者・中学生・保護者たちと直接出会う機会を増やす。HPの更新を、毎週1回行う。「専門学科の特徴を知って入学する」生徒を90%以上にする。
- 活気と規律のある学校生活
 - 一人ひとりの生徒を大切にするとともに生徒全体の向上をめざす。
 - 個別に対応が必要な生徒への指導について、組織的な体制を整備する。
 - 部活動参加者の増加をめざすと同時に学校行事など特別教育活動の充実を図る。また、部活動と学習の両立ができる生徒を育成する。
※自己診断等で「部活動と学習の両立が来ている」と答える生徒が、40%に満たないが、26年度には60%以上になるようにする。部活動参加率85%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成24年12月実施分]	学校協議会からの意見 [平成24年10月5日・25年3月13日実施]
<p>※ほぼすべての項目において、生徒、保護者の肯定的な評価が増加している。</p> <p>【総合的な項目】・質問項目『泉北高校に進学して(させて)よかった』には、『よくあてはまる』と回答した生徒は、(6%)、保護者は(10%)増加し(生徒48%、保護者59%)、高い伸びを示している。また、『学校の雰囲気が良く、生徒が生き生きしている』(9%増)など、すべての項目で、積極的肯定的回答が5%以上増加し、生徒、保護者から高い評価を得ている。(特に1年生において、大きく改善している)</p> <p>【特色のある教育活動】・『SSHの取組み』に対しては、肯定的回答が、生徒(7%)、保護者(5%)増加し、『EFHSの取組み』に対しては、生徒(12%)、保護者(11%)増加し、また、『異文化理解や国際交流について学習機会が多い』は、生徒は(8%)、保護者は(12%)増加している。本校の教育活動について、理解が深まるとともに、評価を得ている。</p> <p>【特別活動】・『ホームルーム活動』や『生徒会活動』に対しての生徒の回答は6~14%積極的肯定的意見が増加し、充実した学校生活への意欲の向上が見られる。</p> <p>【進路指導】・『進路についての取組み』に対しては、生徒、保護者ともに5%以上向上し、今年度の取組みに対して高評価を得ている。</p> <p>【学習指導】・保護者アンケートの『授業が分かりやすいと言っている』(59%)、『家庭学習に積極的に取り組んでいる』(57%)や、生徒アンケートの『予習・復習・宿題など家庭学習はちゃんとできている』(37%)など、学習面での項目の評価は高くなく、また、改善も見られない。自習室の整備など、次年度に向けて、新たな取組みの必要性がある。</p> <p>【広報活動】・『HPや、メールマガジンでの情報発信』に対する保護者の評価は、それぞれ(14%)、(19%)向上し、結果、『家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている』(7%向上)、『学校運営に保護者の意見が取り入れられている』(7%向上)、『PTA活動が活発』(14%向上)、『子供は学校の話をよくする』(13%向上)など、開かれた学校づくりが行われている。</p> <p>【保健防災活動】・『地震や台風への対応』に対する保護者の肯定的な回答が(7%減)、『学校の施設、設備、学習環境』に対しては(6%減)、『事故防止に配慮』(6%減)など、この分野のみ、評価が低下しており、保護者に対する周知方法の改善など、次年度の課題である。</p>	<p>第1回 10月5日(金)実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の今年度の取組みについて、分掌学年等から連絡報告を行う。 教育活動全般について、委員より高い評価を得る。 授業力の向上、についての意見を得る。 <p>第2回 3月13日(水)実施</p> <p>全般的には、本年度の本校の取組みについては、高い評価を得た。</p> <p>1 学習指導についての提言</p> <p>①家庭学習時間の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度も、校内の様々な組織において、家庭学習時間の増加に向けた取り組みを継続して検討する必要がある。(この課題においては、中学校や大学においても同様の課題を有しており、情報の共有など、共同した解決に向けた取組みの可能性も探る) 『良い』授業を展開していれば、その授業の宿題等の家庭学習時間は増加する。いかに授業の質を上げるかが、家庭学習の改善に対しても重要である。 <p>2 広報活動についての提言</p> <p>①広報内容の精選</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門高校としての広報内容のさらなる検討が必要。大学入試に対する利益、不利益等を周知することなど、広報活動の中でさらなる改善を必要とする。また、その不利益を埋める手立てに関しても検討を加える。 <p>②学校説明会の日程の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日程を、他校と調整してずらすなど、より参加しやすい日程について検討を行う。 <p>3 保健防災活動についての提言</p> <p>①保護者、生徒への周知方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内で策定している『防災計画』等について、HP等に掲載し周知を図る。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	<p>(1) 専門高校としての特徴を活かした教育課程の編成と、両科の強みを相互に活かす教育活動の展開</p> <p>ア 授業力アップのために、授業アンケートや研究授業を行う。</p> <p>イ 生徒の自ら学ぶ力を高める。自習環境を構築するとともに、自習方法等を身につけるような導入指導を工夫する。</p>	<p>ア・授業力アップをめざす検討チームを首席を中心に立ちあげ、教務部・進路部と連携して対策を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを年2回実施する。 研究授業及び合評会を、各教科年1回開催。 参観、公開授業を年3回以上実施する。 <p>イ・学習時間調査を定期的に行い生徒の学習実態を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習のさせ方を教務部にPTを作り検討する。 自習環境について、課題検討委員会を中心に対策を練る。 	<p>ア 生徒による授業アンケートの「理解度65%」、「興味関心65%」。</p> <p>イ 研究授業の開催回数と参加教員数。全教員が最低1回は授業を見学して合評会に参加する。</p> <p>ウ 公開授業・授業参観の参加人数を50名以上。</p> <p>エ 「予習復習をよくする」生徒の割合が70%以上。</p>	<p>ア 「理解度78.2%」「興味関心73.0%」で達成。ただし、「理解度65%」を下回るのは、「2年科学科60%」、「興味関心65%」を下回るのは、「1年科学科63%」「2年科学科54%」で、中だるみといわれる2年生への、勉学の課題の出し方・意欲の喚起の具体的方策を考える必要がある。(◎)</p> <p>イ 理科以外のすべての教科で、初任者・2年目の教員の研究授業を実施し、授業力の向上に努めた。(△)</p> <p>ウ 授業参観は、保護者対象2回、塾対象1回、中学生対象1回実施した。保護者は5月67名、10月41名。(△)</p> <p>エ 「予習復習46.3%」で未達成。(△)</p>
	<p>(2) 英語教育の充実</p> <p>ア 英語運用能力の向上の為の教材づくりや教育課程。</p> <p>イ 総合科学科の生徒の英語発表能力を向上させる。</p> <p>ウ 英語検定やTOEICなどの資格試験にチャレンジする生徒を増やし、その得点を向上させる為の講座を開く。</p>	<p>ア・学校設定科目「GET(Global English Training)」を6限目(放課後)の選択科目として開講するとともに土曜日に特設クラスを開講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ALTとのティームティーチングにより、英語によるプレゼンテーション能力の向上。 授業を通じて、TOEIC等の対策を行い、その成績の向上を図る。 1・2年生全員にTOEIC BRIDGEを受験させる。 英検受験を積極的にすすめ、2級合格者の増加をめざす。 <p>イ・総合科学科において、専門科目「総合英語」を実施する教育課程にする。TTによる「科学英語」を開講して、課題研究等の発表を英語で行う力を付ける。</p>	<p>ア・TOEIC BRIDGEの平均点140点(2年国際文化科)を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英検の受験者と2級合格者数(40名)。 <p>イ・総合科学科生徒の、授業アンケートによる授業理解度の向上(70%をめざす)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題研究の発表において英語を使用する。 	<p>ア TOEIC Bridgeの平均点は、2年国際文化科133.9(1年次121.6)、2年総合科学科112(1年次108.8)、1年国際文化科121.7、1年総合科学科108.2であった。目標点には届かなかったが、伸び率は大きかった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英検の2級受験者は91名(昨年57名)、合格者は68名(32名)であり、目標を大きく上回った。(◎) <p>イ 第1回授業アンケートでは75.7%、第2回授業アンケートでは74.5%を達成することができた。今後は理解度を維持しながら、意欲関心など他の項目の向上もめざしたい。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題研究の発表では、発表要旨は全班英語で記載し、口頭発表では導入部のみであるが英語で発表をした(○)。
	<p>(3) 理数教育の充実</p> <p>ア 理科で多くの実験実習を取り入れるとともに、それを活かす教材を開発。</p> <p>イ 高大連携、大学訪問研修を実施し、学習意欲を高める。</p>	<p>ア・理科及び数学において、少人数によるきめ細かな指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科においては、実験・実習の回数を確保。 課題研究については、授業時間及び放課後等を活用し、生徒の自主的な学習活動を支援。 課題研究発表会の実施 <p>イ・高大連携講座や大学訪問研修を行い、先端技術に触れる機会を提供する。</p> <p>ウ・小中学校向け理科講座を実施する。</p>	<p>ア・理科において実験を授業回数の50%以上実施する。</p> <p>イ・科学系コンテスト参加生徒数。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学訪問研修を30以上の研究室で実施する。 小中学校向け理科講座を複数回実施する。 	<p>ア 化学では50%以上実施。他の科目では20~30%にとどまったが、昨年度よりは増加した。(△)</p> <p>イ 昨年度は参加0名だったが、今年度は、7班25名がコンテストに応募した。大阪府学生科学賞で最優秀賞(堺市長賞)を、日本植物学会では優秀賞を受賞。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学訪問研修は、近大6・大阪府大工12・大阪府大理6・大阪市大理6の合計32研究室で実施。(○) <p>ウ 小学生向け9講座、中学生向け16講座実施した。このうち、夏休み中の小学生向けは5回連続講座。(◎)</p>
2 進路指導の充実	<p>ア 進路情報の的確な提供と、進路選択のきめ細かな指導。早期からのキャリア教育の充実。</p> <p>イ 進路獲得の為の補習。</p>	<p>ア・進路関係HRの実施時期を早め早期から高い目的意識を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路講話・保護者対象進路説明会など様々なチャンネルで情報を提供する。 外部模試を積極的に利用し、より多くの生徒が受験するようにする。 <p>イ・平常時・休業中に、全学年ともに、進学をめざす補講を実施する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の進路指導に対する生徒満足度80%以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> センター受験者130名、うち900点受験者20名以上。 国公立大学(20名)及び難関私大現役合格者(100名)の増加。 <p>イ・進学補講週3日実施。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の進路指導に対する生徒満足度が昨年度より4.9%増加した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> センター受験者117名、うち国公立受験者が約50名。国公立合格者13名。難関私立103名(3/12現在)(○) 進路HRで講話や学部別ガイダンス等を実施。「進路だより」を学年毎に6号以上発行。(◎) 外部模試を1・2年2回、3年4回校内で実施し、実力の把握と苦手分野の克服の材料とした。(○) <p>イ・長期休業中の希望講習を1年2教科2年2教科3年5教科(14講座)で実施し、1・2年それぞれのべ30名以上、3年200名以上が利用した。(○)</p>
3 開かれた学校づくり	<p>ア 広報部を中心に情報発信、説明会の充実。</p> <p>イ 小中学生対象の科学講座・英語講座を実施。</p>	<p>ア・説明会開催回数を増加する。体験授業やクラブ体験など、さまざまに学校を体験してもらう機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> HPの更新頻度を増やし、情報提供を早める。 月刊学校新聞の発行 対中学の広報活動の充実 <p>イ・小中対象の理科・英語出前授業の開催</p>	<p>ア・学校説明会の参加人数1000人以上。個別応接説明会開催及び参加回数10回。</p> <ul style="list-style-type: none"> HPを毎週1回更新。 中学訪問2回実施。進学相談会2回実施。 	<p>ア・学校説明会参加人数(みらい適塾500名、第1回280名、第2回290名、第3回90名、計1160名。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> HP更新は90回以上であり、英語でのFacebookページも開設。常に新しい情報発信を行えている。(◎) 中学校訪問を全教員により、2回実施。外部での個別相談会を4回実施。十分な広報活動が行えた。(◎) ガイドブック約3500部。パンフレット6000部作成し説明会等でほぼ全て配布した。また、チラシを21000部作成し、地域の全中学生3年生に配布をし、ポスター300枚やのぼりの作成など、多くのツールを使用した、積極的な広報活動が行えた。(◎) <p>イ、小中学生対象の出前講座は、理科が2回、英語が1回実施した。(○)</p>
4 活気と規律のある学校生活	<p>ア 個別に対応が必要な生徒への組織的な体制整備。</p> <p>イ 部活動参加者の増加と特別教育活動の充実。部活動と学習の両立。</p>	<p>ア・相談室機能の充実と、ケース会議の組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を抱える生徒を発見する為の遅刻指導 教員のカウンセリング能力の向上 <p>イ・部活動の活性化の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 両立を達成する為の方策を進路部・教務部からメンバーを募りPTを作り検討する。 	<p>ア・遅刻数の減少(昨年度より5%減)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員対象の研修会の開催。(SCを中心に2回) <p>イ・部活参加割合(80%以上)を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断アンケートで「部活と学習の両立」の肯定率の10%向上。 生徒の自宅学習時間、平日1時間以上。 	<p>ア・遅刻数は微減(2952→2932)、1年生は減少したが、2年生で増加したことで横ばいとなった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> SCによる研修は年1回実施。「学習障がい」等についておこなった。また、次年度に向けて、生徒支援体制の見直しを検討している。(○) <p>イ・部活動の参加率は79%(昨年度83%)。「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定率が前年度比4%増。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生にたいして、夏休みに4日間のクラブ体験会を実施。部員不足のクラブへ入部を促す対策が必要。(△) 自宅学習時間については、3学年平均で平日41分(38分)、休日62分(59分)。()内は昨年度(△) 「部活動と学習の両立」の肯定率は30%(前年度比5%減)であった。部活動参加者に、両立できる具体的な勉強方法の指導等が必要。(△)